

売上総利益率は前年同期比+4.8ptの33.3%と改善

決算サマリー

- 1月9日、オオバは26/5期Q2決算を発表した。売上高は前年同期比-11.9%の7,380百万円、営業利益は同+2.9%の814百万円となった。四半期ベースの営業利益増減率は、Q1が同-36.2%だったのに対し、Q2は同+23.6%と改善に転じた。Q1は事業ソリューション領域において、前期に計上した一過性の大型案件の反動減の影響を受けたが、Q2累計では当該影響を吸収し、順調に推移した。また、当該大型案件は低収益案件であったことから、Q2累計の売上総利益率は33.3%（同+4.8pt）と大幅に改善している。
- 主力の建設コンサルタント領域は、売上高が6,764百万円（前年同期比+1.7%）、売上総利益が2,318百万円（同+12.5%）、売上総利益率が33.7%（同+2.9pt）と、特に利益面が順調に推移した。利益率の改善要因は、1) 技術者単価の上昇、2) 利益率の高い案件構成比の上昇、3) 契約内容の見直し（長期案件においても每期単価の見直しを行える形態に順次変更）による採算改善、などが寄与している。
- 受注動向については、受注高が前年同期比-0.9%の9,887百万円、受注残高が同+1.3%の11,965百万円となった。建設コンサルタント領域では、地理空間情報や環境の受注が増加した一方、まちづくりや設計分野は伸び悩んだ。全体では、官公庁向けの受注はやや鈍化している様子だが、民間向けの引き合いは堅調であり、両者が相殺される形となっているとSIRは推察する。
- 26/5期の会社計画（売上高17,000百万円、営業利益が2,000百万円）は据え置かれた。Q2累計の業績進捗率は、売上高が43.4%、営業利益が40.7%と、営業利益は過去5年間の平均進捗率（売上高42.1%、営業利益31.7%）を上回っている。1) 同社業績は下期偏重の傾向が強いこと、2) 建設コンサルタント領域の利益率改善要因には持続性が見込まれることを踏まえると、特に利益面は順調な推移と評価できよう。

決算期	売上高 (百万円)	YoY (%)	営業利益 (百万円)	YoY (%)	当期純利益 (百万円)	YoY (%)	EPS (円)	DPS (円)
2022/5期	15,933	0.4	1,583	18.6	1,086	27.3	66.98	23.00
2023/5期	15,648	-1.8	1,715	8.3	1,075	-0.9	66.74	24.00
2024/5期	16,486	5.4	1,843	7.4	1,339	24.6	83.70	37.00
2025/5期	18,097	9.8	1,937	5.1	1,334	-0.4	83.68	42.00
2026/5期(会予)	17,000	-6.1	2,000	3.3	1,400	4.9	88.15	42.00
2025/5期Q2	8,377	18.2	792	40.3	565	45.9	35.42	20.00
2026/5期Q2	7,380	-11.9	814	2.9	616	9.0	38.72	21.00

出所：同社IR資料より SIR作成

Q2 Flash



チームカバレッジ
research@sessapartners.co.jp



本レポートは当該企業からの委託を受けてSESSAパートナーズが作成しました。詳しくは巻末のディスクレマーをご覧ください。

ディスクレーマー／免責事項

本レポートは対象企業についての情報を提供することを目的としており投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載されたデータ・情報は弊社が信頼できると判断したのですが、その信憑性、正確性等について一切保証するものではありません。

本レポートは当該企業からの委託に基づきSESSAパートナーズが作成し、対価として報酬を得ています。SESSAパートナーズの役員・従業員は当該企業の発行する有価証券について売買等の取引を行っているか、または将来行う可能性があります。そのため当レポートに記載された予想や分析は客観性を伴わないことがあります。本レポートの使用に基づいた商取引からの損失についてSESSAパートナーズは一切の責任を負いません。当レポートの著作権はSESSAパートナーズに帰属します。当レポートを修正・加工したり複製物の配布・転送は著作権の侵害に該当し固く禁じられています。



SESSAパートナーズ株式会社

東京都港区麻布十番2-8-14 i-o Azabu 5a
info@sessapartners.co.jp